

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 改訂された急性胆嚢炎診療ガイドライン(Tokyo Guidelines 2018)の安全性・有効性に関する検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 外科 職位・氏名 准教授 浅井 浩司

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院外科では、急性胆嚢炎のガイドラインである Tokyo Guidelines2018 の安全性・有効性の評価を行うことを目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果は、急性胆嚢炎の治療成績の向上につながることを期待されます。

【研究対象および方法】

この研究は、大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2005年1月から2021年12月までに東邦大学医療センター大橋病院外科において、急性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢的手術術の手術を受けた方 461例を対象とします。(対象症例の中で手術施行時に認知症、未成年の患者さんは含んでおりません)

方 法:診療録から抽出したデータを含めて解析をします。

【研究に用いられる試料・情報】

【術前因子】

年齢、性別、併存疾患と評価(American Society of Anesthesiologists: ASA分類, Charlson comorbidity index: CCI分類, など)、発症から来院までの時間、術前胆嚢ドレナージの有無、術前待機期間, など

【術中因子】

手術時間, 出血量, 術中合併症(胆管損傷の有無), 開腹移行, など

【術後因子】

最終病理結果, 術後在院期間, 術後合併症, 退院後 3 か月以内の再入院の有無, 退院後合併症(腹腔内膿瘍, 胆管狭窄など), など

【研究組織】

代表施設名:東邦大学医療センター大橋病院 外科

研究代表医師: 浅井 浩司 役職: 准教授

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

現在、患者さんご本人の認知機能の低下している場合、死亡されている場合は代諾者の方の判断で研究に承諾されない場合もご連絡ください。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 外科

職位・氏名 准教授 浅井 浩司

電話 03-3468-1251 内線 7176